

# 保健室より

## 目が良く見えない・目に異常がある時のサイン

- ・物を見る時、片方又は両方の目を細める、首を傾げる、顔を近づける。
- ・片方の目を隠すと、途端に嫌がる。
- ・目が寄っている、別の方向にずれている。
- ・目が振動している。
- ・目の大きさが左右で異なる。
- ・目の表面や中が濁っているように見える。
- ・まつげが目の方に生えているために涙目になっている。
- ・目ヤニが多い、白目が充血、目の痛みがある。

※上記のような症状がある場合には、早めに受診しましょう。



## 弱視とは

生後間もない赤ちゃんの視力は、ぼんやりと明かりがわかる程度です。その後は、家族の顔を見つめたり遊んだりすることで、視力はだんだん発達していきます。3歳頃までに急速に発達したあとは緩やかに発達していきます。8～10歳頃になると視力は完成し、大人と同様にできるようになります。乳幼児の視力の急速な発達段階に、何かの理由で網膜にはっきりと像が写らず刺激が加わらなかった場合、視力は育ちません。その後から、視力が育ち始めても遅れを取り戻すことは出来ず、遅れた分は失われたまま追いつけません。その結果、弱視になってしまいます。※視力発達の経過は図1を参照して下さい

<対応>乳幼児の場合には、視力回復も考えられるため早めの眼科受診をお勧めします。

眼鏡強制や点眼薬を使用した治療があります。早期発見・早期治療が大切です。

## 斜視とは

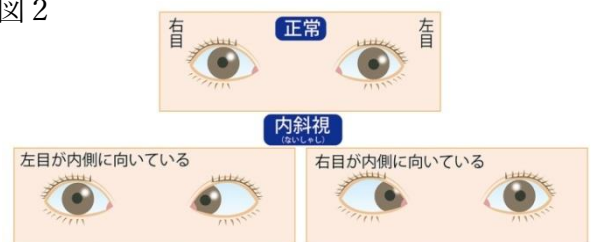
片方の目が内側に向いてしまう（内斜視）外側にむいてしまう（外斜視）があり、上下方向の視線のズレが加わっていることもあり、ぼんやりとしていると現れ、しっかりと物を見ていると消失するケースもあります。原因としては、両目の視線を合わせようとする脳の機能が悪い場合・眼球を動かす筋肉に異常がある場合、遠視の影響が強くなる場合（内斜視のみ）※斜視の種類は図2を参照して下さい

<対応>乳幼児・大人を問わずに手術による治療が一般的ですが、目のトレーニング、眼鏡強制で治る事もありますので、早期発見・早期受診・早期治療が大切です。

図1



図2



最近は、テレビや携帯、パソコン・ゲーム等で目に負担がかかりやすいと言われています。また、子どもの目の異常は健診等で指摘されることが多いため、眼科受診を勧められたら放置せずに受診することが大切です。